

55年ぶり万博巡り 同窓会企画

岐阜出身の男性 忘れられない思い出再び

1970年の大阪万博を高校の学校行事で訪れた男性が21日、当時の同級生と一緒に、大阪・関西万博の会場・夢洲(大阪市此花区)を訪れる。大阪で再び万博が開催されると知り、「元氣なうちに、みんなでもう一度行きたい」と万博会場での同窓会を企画した。男性は「万博には人を動かすエネルギーがある。55年ぶりにみんなとパビリオンを巡るのが楽しみ」とする。

(佐藤祐介)

男性は大阪市福島区で民泊を経営する児玉信男さん(73)(兵庫県芦屋市)。岐阜県出身で、高校3年生だった70年、日帰りの学校行事で大阪万博を訪れた。

月の石や缶コーヒ、動く歩道……。最新技術の数々に衝撃を受けた。「外国人を見たのも初めてだった。縄を泳め流るパビリオンに長蛇の列ができていて、世

界中から集まった人たちの熱気に圧倒された」と振り返る。

「大阪・関西万博開催」のニュースに触れ、当時の思い出がよみがえった。「みんな、元氣にしているだろうか」。高校卒業後に建設業に就き、結婚を機に関西に移って40年以上。同級生のうち数人とは卒業後も親交があったが、いつの間にか古希を過ぎていた。

「みんながそろって会えるのは、最後になるかもしれない」。人づてに住所を把握し、全国に住む同級生約120人にはがきを出して参加を募ると、約40人が応じた。児玉さんは自ら会場に足を運んで下見し、主なパビリオンや飲食店、休憩場所などの位置を確認するなど、着々と準備を進めた。

20日には、児玉さんが経営する民泊施設に集まって思い出話に花を咲かせる予定だ。「みんなで大層根リングに上って、パビリオン



大阪万博を訪れた際の写真が載った卒業アルバムを眺める児玉さん(大阪市福島区)

を見渡したい。日本や外国の最新技術の結晶を見て回り、忘れられない思い出を作れたらうれしい」と話す。